

第 11 回 山縣市子ども・子育て会議

日時 令和元年 7 月 16 日 (火) 午前 9 時 30 分～

場所 山縣市保健福祉ふれあいセンター 3 階 3 ボランティア室

- 議題
1. 子ども・子育て支援計画について
  2. 子ども・子育て支援の施策展開における進捗状況・評価について
  3. 子ども・子育て支援計画策定に向けて

配布資料 資料 1 子ども・子育て支援事業計画の実績一覧表

資料 2 子ども・子育て支援の施策展開における進捗状況・評価報告書

資料 3 山縣市子ども・子育て支援事業に関するニーズ調査報告書

出席委員	三輪 聖子	委員	岐阜女子大学	家政学部生活科学科	教授
	富永 裕子	委員	小中学校 PTA		代表
	木村 麻理	委員	NPO 法人山県楽しいプロジェクト		
	柏木 満美子	委員	児童養護施設若松学園		代表
	前田 恵津子	委員	高富民児協主任児童委員		代表
	田中 尚子	委員	美山民児協主任児童委員		代表
	河村 一彦	委員	校長会長 (美山小学校)		
	河野 隆	委員	はなぞの北幼稚園		園長
	横山 みゆき	委員	梅原保育園		
	丸茂 亜希	委員	保育園保護者代表 (高富保育園)		
	鬼頭 立城	委員	学校教育課		課長
	土井 義弘	委員	生涯学習課		課長
	三島 厚子	委員	ピッコロ療育支援センター		所長
	堀 邦利	委員	子どもげんきはうす		館長
	丹羽 洋子	委員	高富児童館		館長兼子育て支援センター所長
	加藤 法子	委員	子育て世代包括支援センター		所長
欠席委員	佐村 志奈子	委員	伊自良民児協主任児童委員		代表
	堀井 有沙	委員	保育園保護者代表 (伊自良保育園)		
	早川 真弓	委員	保育園保護者代表 (みやま保育園)		
傍聴人	0 人				
事務局	子育て支援課	課長	浅野 晃秀		
	子育て支援課	主幹	高井 俊哉		
	子育て支援課	係長	正治 裕樹		
	子育て支援課	主事	高屋 陽子		

## 1. 開会

会長	<p>皆様おはようございます。岐阜女子大学の三輪です。定刻となりましたので、これより第 11 回山縣市子ども・子育て会議を開催させていただきます。なお、本日まで出席の委員は 16 名で半数以上のご出席でございますので、子ども・子育て会議規則第 6 条第 2 項により会議が成立することをご報告いたしますとともに、山縣市附属機関等の設置及び運営に関する第 7 条の規定により、会議を公開することとなっておりますので、傍聴席を用意させていただいています。よろしくお願いいたします。では、事務局からお願いします。</p>
----	---

事務局	<p>本日皆様方にはお忙しい中ご出席いただき、誠にありがとうございます。平素は、当市子育て支援事業に格別なるご理解ご協力賜り暑くお礼申し上げます。本日は、子ども・子ども子育て支援計画及びその進捗状況等についてご報告し、皆様方にご意見をいただきたいと存じますのでよろしくお願いいたします。</p> <p>本日ですが、次第にあります 2. の市長あいさつと、3. 委嘱状及び任命書の交付の順序を入れ替えて進めさせていただくことにご了承いただきたいと思っております。議事が始まりますまで、私のほうで進行させていただきますので、よろしくお願いいたします。</p>
-----	---

## 2. 委嘱状及び任命書の交付

事務局	<p>本会議の委員は「山縣市子ども・子育て会議規則」第 4 条に定められていますように任期が 2 年ですが、前任者の任期を引き継ぎ、今年度 3 名が新規委員となりました。新しく委員になられたのは、PTA 代表の富永様、山縣市校長会長である河村様、子どもげんきはうすの堀館長です。市長から委嘱状を交付させていただきますので、その場にてよろしくお願いいたします。</p> <p>なお、任命をさせていただきます堀委員には、お手元に任命書を置かせていただいておりますので、これをもって交付に代えさせていただきますので、よろしくお願いいたします。</p>
-----	--

## 3. 市長あいさつ

事務局	<p>それではここで、林市長がごあいさつ申し上げます。</p>
市長	<p>あらためまして、皆様おはようございます。お忙しい中子ども・子育て会議にお集まりいただき、ありがとうございます。ただ今、新しく 3 名の方に任命させていただきました。私がこの会議について一番印象に残</p>

	<p>っていることは、平成 27 年に国が子ども・子育て 3 法を施行するにあたりまして、国が全国の都道府県の担当課長を集めて説明された時のことです。その際、岐阜県の担当課長さんが、出生率が非常に低くて子どもたちが少なくなっていくという前提の上に国が新しい法律を作られて、いかに子どもに対する具体的な支援が始まるのかと非常に期待をしていったのだけれども、がっかりしたということをお話されたことを印象深く記憶しております。今日お集まりいただいたのは、実際に子どもたちを相手にしてさまざまな立場からご支援やご協力、ご指導していただく方や、保護者の方もいらっしゃるわけですので、皆様のお考えを聞かせていただきたいです。今年度は 3 回の会議を行い計画を策定していきますが、少しでも実践的な、子ども達や保護者の方の支援になるような計画にする会議にさせていただけたらと思います。子どもの数が山県市も減ってきていて、昨年も山県市で生まれた子の数が 122 人でした。普通は 150 人くらいがずっと横ばいだったと思いますが、急に減ってきてまして、20 年前が 246 人でしたので、この 20 年間で半分になったというような状況であります。これは山県市に限らず全国的な状況でありますし、15 歳から 65 歳未満の働く世代の人口がこれから急激に減ってきてまして、職場においても退職者の人数分だけ入れるということが困難な状況になっていきます。人口の減少は日本だけではなく人類が初めて経験することだそうです。今の日本の団塊の世代が一気に減ってきてまして、子ども達の数も減っていくという状況は日本だけでなく、人類にとっても初めての状況だそうです。そういった状況をふまえながら、より実務的に保護者の皆様や子ども達を支援できるような会議になりますようお願い申し上げますご挨拶とさせていただきます。よろしくお願いいたします。</p>
事務局	市長におかれまして、これで退席させていただきます。
市長	これで失礼いたします。どうぞよろしくお願いいたします。(市長退席)
事務局	それでは三輪会長に議事進行をお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

#### 4. 議事

会長	<p>それでは進めさせて参りたいと思います。まずお手元の資料にそって進めさせていただきたいと思います。</p> <p>まず、「子ども・子育て支援事業計画の実績について」、「子ども・子育て支援の施策展開における進捗状況・評価について事業実施報告」について、事務局のほうから 2 つ合わせて説明をお願いいたします。</p>
事務局	～配布資料の確認～

	～資料 1 について説明～
事務局	～資料 2 について説明～
会長	いろいろな内容がありますが、いかがでしょうか。
委員 A	<p>ファミリー・サポート・センター事業の事務局としてやっておりますので、その実情について少しお話させていただきたいと思います。平成 30 年度の延べ利用実績として 112 件となっています。平成 29 年度は 186 件でしたので、平成 30 年度は減っております。減少については、定期的に送迎を週 2、3 日でお願いされていた会員さんが、お子さんが大きくなって必要がなくなったということで、サポートを依頼されなくなったということが原因の一つにあるかなとは思っているのですが、実は、ファミサポの現状として、送迎が 85 件あります。その他は児童館での託児が 27 件となっています。85 件は今言いましたように定期的に利用される方が多いので、依頼会員としては 2 人のみです。ほとんどが、児童館での預かりというのが現状です。ファミリー・サポート・センター事業というのは送迎ができるというのが大きな特徴だと思っています。依頼会員さんのお宅や提供会員さんのお宅で託児するというのが本来ですが、今はそれを好まれない方が多くて、公共施設である児童館での託児をしてほしいという要望が多いので、児童館での託児をしています。一時預かり事業についても要望が少し増えているのではないかなと感じるところではあるのですが、今後、保育園以外で預ける場所を増やすというのも一つ検討したらどうかと考えております。</p> <p>課題としてあげています提供会員の高齢化と確保は難しい問題でして、ファミサポは相互援助、お互いに助ける人、助けられる人の相互援助なのですが、そうするとやはり提供会員は高齢化していて、若い方になり手がいない。当然仕事として成り立つものではなくボランティアとしてやっていただくようなもので、私たちもコーディネートする際は、依頼があってから提供会員さんを探して、なかなか見つからないということや、当日になってやっぱり今日は…と言われるかたもいらっしゃるの、苦慮している現状ではあります。そのあたりも考えて、一時預かりの場所としてもう一箇所ということも考えていただけるといいかなと思います。</p>
会長	先ほど預かる側が高齢化しているという話がありましたが、今は何歳くらいの方が預かってみえるのですか。
委員 A	今は、50 代や 60 代の方が多くを占めています。やはり若い方は働きに行かれますので、なかなか家にいらっしゃる方も少ないです。もう一つ、送迎に関しても、高齢者の事故が多くなってきているので、提供会

	員さんも送迎はちょっとやめておきたいと言われる方もいらっしゃると思いますし、依頼会員さんも不安を抱かれる方もいらっしゃる、なかなか難しい問題です。
会長	50代、60代よりもっと年上の方かなと思っていましたが。
委員A	70代くらいの方もいらっしゃいます。
会長	国のほうでは75歳まで働けというような状況ですので、どうなのかと思いました。
事務局	登録としては28人いらっしゃいますが、実際に実働としてお願いしたときにすぐに動いてくださるのは10人くらいです。
会長	もう一箇所一時預かりの場所を増やしてはという提案ができましたが、市としてはいかがでしょうか。
事務局	今の議題は評価についてですが、お答えさせていただきますと、ファミリー・サポート・センターについては個々の状況も影響され、個々のニーズが合わないということも原因となりますが、一時預かりにつきましては、資料3アンケート調査結果を見ていただくと、先ほど事務局が説明したとおり、一時預かりのニーズに対して提供している数はほぼ充足しているということになります。山口市で一時預かりは7か所の保育園で実施しており、その大半は高富保育園や富岡保育園での提供で、その他の5園については希望がそれほどないという現状です。また、一時預かりのお願いがあったことに対して、お断りしているということはないので、現在は希望に対してお応えできている状況です。ただ、いろいろなシチュエーションがありますので、細かな対応をしていくために市がどのように対応していくかについて、今後計画の策定の中で検討していく必要があります。
会長	今は報告の段階ですが、一時預かりの延べ人数は減っているのです、充足はしているのかなというところではあります。 他にいかがでしょうか。
委員B	県の子育てタクシーがあると思うのですが、連携等はしていないですか。
委員A	連携は今現在していません。ただどういうものを聞いてみたことはあるのですが、送迎も塾への送迎だったりということも出てきているので、それは本当にファミサポでやるべきことなのかなという課題もあつたりするので、子育てタクシーさんへつなぐ必要もあるのかなと思います。
会長	他はどうでしょうか。
委員C	放課後児童クラブのことですが、評価が夏休みの支援員の確保が課題

	<p>となっていますが、昨年度も言いましたが課題はそれだけではないと思っています。夏休みをこれから迎えますが、1部屋に30人以上の子どもたちが1ヶ月以上過ごすということで、中には朝7時半から夜7時までいる子もいます。そういう中で、本当に精神的に体力的にそれでいいのかと思うのですが、評価のなかにクラブの整備を行います、整備はどういう内容を伺いたいと思います。それと昨年は公民館で受入れをしていただいたところがあり、ホールなども使わせていただけたからよかったということも聞きます。市のほうでは今後、クラブ室の整備ということになると小学校1年生～6年生が一部屋で利用ということになると思いますが、今後放課後児童クラブを利用される方が増えていくということで、市ではどのように考えていますか。</p>
<p>会長</p>	<p>今、報告の段階ということですが、高富、富岡、大桑をのぞいて、整備を行ったとありますが、具体的にはどのようにされましたか。</p>
<p>委員D</p>	<p>今は小学校の空き教室をクラブ室として使用させていただいています。補助枠がありますので、一人あたりに必要な広さを確保するというので、昨年度初めてクラブ室としては、梅原小学校の敷地内にクラブハウスを作りましたが、部屋としては基準どおりの広さとなります。今まで公民館が空いている時間帯があればそこを使用させていただいておりましたが、今年から完成したクラブ室を使用することになります。今までの話を聞くと、例えば体育館を使用するとなると子どもの行動範囲も広いので、それを支援員さんが見守るのは難しいということもあります。また、支援員さんを確保することが難しいという課題もありますが、今年も募集をしましたし、大学生に募集をかけるために大学も3件回らせていただきましたが、応募が13人くらいしかいませんでした。支援員が大勢いれば別の部屋を利用できるかと思いますが、今の支援員さんの人数で目が届かない場所がないところとなると現在の状況になりまして、現状としては今はそこまでの計画はしていませんが、今後支援員さんが増えて充実した場合、学校等と調整をしながら空き教室等を使うことも考えていますが、現状としてはそこまではないです。あとは支援員の工夫で、わたしも正直こちらに初めてきて、朝7時から夜7時半までいる子にしてみれば、狭い部屋にずっといないといけないのは苦痛だと思いますので、その過ごし方を支援員と考えていきたいと考えております。</p>
<p>会長</p>	<p>はい。今朝の中日新聞の一面に児童館が狭くて暑いというような記事が載っていて、これは全国的に同じ状況なんだろうと見ておりました。現実問題、夏休みは長い休みなので遊びに行きたいというお子さんもい</p>

	<p>と思いますが、今の支援員さんのお話ですと、場所はなんとか確保できても支援員さんがいないので、見守りができないという状況で、それをどうやって確保すればよいのかというのは、ファミサポと同じ問題で大きな問題だと思いました。できることで対応していくしかないと思いますが、いかに子ども達が充実して過ごすことができるかが一番大事だと思いますので、良い知恵をしぼっていかなければならないと思います。</p>
委員C	<p>昨年度、市長さんが放課後児童クラブを回ってきてくださったのですが、そのときにどのようにご覧になられたかわかりませんが、「30人以上の子どもたちがこういうふうに1部屋にいるんです」と話したら、「そうですか。他のクラブには、これ以上の状況もありますね。」というように実態を把握してみえました。そういった実態を把握していただいて、この内容と課題を見ても昨年度と同じようなことですので、子ども達のために1年1年変わっていけるとよいと思います。</p>
会長	<p>はい、わかりました。ぜひそういう方向で検討していただきたいと思います。</p> <p>他はいかがでしょうか。</p>
委員B	<p>働き手が減っているという話と、子どもの数が少子化で減っているという話ですが、平成27年度に始まった計画では、その当時はおそらく人口は絶対減っていくと考えられていました。未満児の人数は減っていますが、保育の利用率は高まっています。これがやはり先ほど言っていた働き手が足りないという会社から影響していると思います。よその岐阜市ですとか市町村には「すくすくジャパンなるほどブック」の4ページにある、地域型保育がさかんに行われていて、特に名古屋は待機児童の問題もあって、小規模保育が多く設立されていますし、岐阜市でも増えています。増えている中で、それでも1歳から2歳が入れない、また育児休暇後に保育園を探すのが非常に難しいということです。山県市も将来的にどうなっていくのかということがあると思いますが、こういった地域型保育の必要性が本当はないのかということで、今計画には完全に斜線がうってあるので、今後の計画にも関わってくると思いますが、事務局ではどのように把握されているのかをお聞かせ願います。</p>
会長	<p>地域型保育は山県市にはないのですね。そのあたりについて何かお考えはありますかでしょうか。</p>
事務局	<p>ご指摘いただいたとおり資料2にありますように、3号の利用者に関しては平成29年度と平成30年度を比較して見ていただきますと、0歳はそんなに変わりはないですが、1歳、2歳に関しては38%代から48%</p>

	<p>代と飛躍的に増えていることがわかります。今現在山口市においては、未満児保育を公立保育園が担っていることとなります。評価についての審議にはなりますが、資料3のニーズ調査の報告書にありますように、今働いていないお母さんの中にも、今後働いてお子様を預けたいというニーズもございますので、これらのことから今後この48%という数値が落ちることがないと考えられます。また、放課後児童クラブと同様に働き手不足という問題は発生しておりまして、山口市の未満児保育についても量の確保が難しい状態になっているのは確かです。ただ一方で、この未満児保育が増えていることで、ファミサポと一時預かりの利用が減っていったという現象も確かです。こちらの量が増えれば、ファミサポや一時預かりなど他の支援の利用が減っていく数値になるのではないかと考えます。今言ったとおり、未満児保育については、次に考えていただく計画の中で重要な事項の一つだと思っておりますので、それと付随して、ファミサポや一時預かりがこういった動きになるのかということを最重点課題として考えていかなければならないと認識しております。</p>
委員A	<p>あの、よろしいでしょうか。</p> <p>今の話と通ずると思うのですが、病児病後児保育について、平成29年と平成30年が市内施設の利用が増えているということですが、これはもちろん周知されていることもあるかもしれませんが、やはりこれだけニーズがあるのかなと私は感じました。ニーズ調査の報告書では、7割の人が「利用したいと思わない」と答えています。実際の数値とこのニーズ調査の数値の差についてはどのように考えていらっしゃいますでしょうか。</p>
会長	<p>病児病後児保育についていかがでしょうか。</p>
事務局	<p>現在、岐阜市をはじめとした広域利用と、山口市ですと社会福祉協議会の「おひさま」があります。「おひさま」は、看護師さんは常駐していますが、医師は常駐していないという状況でして、当初は補助事業の基準に足りないくらいの利用者数でしたが、昨年度からは補助事業の基準どおりの利用者数になりました。施設のほうにもPRさせていただいている状況です。利用者についてはインフルエンザが流行っていると利用者が多くなりますので、実際の利用者数とニーズ量の差は出てくると思いますが、それ以外では不明な部分もございます。</p>
委員E	<p>ニーズ調査報告書38ページに病児保育を利用したくない人が7割ほどいるとあって、利用したくないわけが39ページにあるように不安があるなどで、結局「親が休んで対応する」と回答している人がいます。その中でも、過半数まではいかないけど4割くらいの方は制度が整</p>

	<p>えば利用したいと思っています。</p>
会長	<p>ニーズ調査で7割が利用したくないと回答している中で、なぜ使わないかという、自分で休んで対応したいという親の思いがそこにあって、そのあたりの不安が解消されれば預けたいと思う親が多いのではないかと思います。これは次の計画の段階で病児保育については考えていただくと、決してニーズがないわけではなくて、預けたいと思う人がいるわけです。</p>
委員B	<p>子育て支援課が担当課ではないのであれですが、資料1の1ページ6段目に男女共同参画について載っていて今年度も予算がついていて、わたしもそちらの会議に参加します。企業さんのほうでも、子の看護休暇が5日間とれるというふうに位置づけられていますが、企業さんがちゃんと休みについて伝えているかということもあり、今年度4月から働き方改革関連法案という名前の法律で有給休暇がある方についてはその年度内に必ずとるようにしてくださいというのがるので、ひょっとするとそこから将来にわたって、企業さんのほうでお子さんがお熱を出されたら、遠慮なく休んでいいよという企業が増えるのではないかと、そうでないとその方が仕事を辞めてしまうので、そういうことが行われるのではないかと思います。法令の啓蒙啓発を同時に行っていく必要があると思います。ここにも予算がついていますので。高熱のお子さんを病児保育に預けるのを不安視される方もいらっしゃいますし、手足口病とか、もうすでに熱は下がっているけど、手や足の症状が治りきっていないから保育園等に行けないといった場合もありますので、どちらも上手に活用できればいいなと思います。</p>
会長	<p>B委員が言われるように、いろいろな方面からのものがありますので、それらも含めて計画の中に入れていけたらと思います。</p> <p>他によろしいでしょうか。それでは1つ目、2つ目の議題に対して、意見は出尽くしたということで、次の議題3の子ども・子育て支援計画（令和2年度～令和6年度）策定に向けてについて事務局から説明をお願いします。</p>
事務局	<p>～資料3について説明～</p>
会長	<p>ニーズ調査の結果について前回の会議で簡単に説明したものの詳しいものがここにあります。こういうことを盛り込んで欲しいということや、こういうことに力を入れて欲しいということがあれば、ご意見をいただきたいです。先ほど意見がありました放課後児童クラブについてですとか、ファミサポの送迎の件とか、病児保育についてですとか、いろいろあると思いますが、その他にあればいかがでしょうか。</p>

委員A	先ほど働き始めるお母さんが多いというお話がありましたが、児童館の利用者の割合も0歳児、1歳児が増えていて、逆を言うと、2歳児、3歳児の利用者さんが減っているという状況です。それで、0歳児の親子の支援で大切になってくるのかなと感じています。先ほどの資料を見ていますと、要支援家庭が少し増えているとなっています。母子手帳交付のときに一人ひとり面接をして保健師さんが対応してくださっているの、そこから拾いあげていただいていると思いますが、やはり妊娠期からそういう次の支援につなげていけるような取組みをしていかないといけないのかなと思っています。今マタニティクラスというのは、歯科検診と木育クラスしかやっていないのでしょうか。
委員F	マタニティクラスでは歯科検診と一緒に母子保健事業についてなど、歯のこと以外でもやっています。
委員A	母親一人では子育てできないような状況なので、どうやって助けてという声を上げられるようにするか、またどのように家族と相談しながら子育てしていくのかということなどパートナーシップだったりも含めて、そういうことを知ることができる機会も作っていったらいいかなと感じています。今妊婦さんも本当にぎりぎりまで働いていらっしゃるの、そういうクラスなどを働いている人でも参加できるように土曜日や日曜日などお休みのときにできるようにしていただくことも考えていただけたらと思います。
委員F	今、子育て世代包括支援センターというのかできましたので、まだ様式作成中ですが、リスクの高いお母さんや妊婦さんには支援プランをたて、サービスの利用や自分でできることなどいろいろなこととお話しながらやっていく予定にはなっていますので、そのあたりも充実させていきたいところではあります。
会長	歯科検診はどれくらいのお母さん方が参加されていますか。
委員F	今、資料を持ってきていませんが、だいたい3分の1くらいは利用されています。まだ3分の2くらいは参加されていないので、その参加されていない方への支援も必要だと思っています。ただ母子手帳交付時に面接は全数していますので、把握はしています。働いているお母さんが多いので、参加率についてはそのようになってしまいます。
会長	働いているお母さんも参加できるような時間設定にさせていただくといのかという気がします。 他はないでしょうか。
委員B	再就職の支援をしている関係で出てくるのが、ダブルケアです。育児をしながら介護もしなければならないとか、育児にあまり手がかけらな

	<p>くなってきたので再就職をしようと相談にきてくださる最中にお母様が倒れられて、そこから介護が必要になってしまったというケースもありました。結局そうなってしまうと、家庭のなかで育児と介護の両立が始まるのですが、そういったところでの支援が、ここでは子ども・子育てですけれども、他の課も交えた福祉の関係でもこの5年後は女性が働き続けて高齢出産ということになっていくことと、親さん方が現役世代で働き続けているなかで、突然何かあって働けなくなったときに、女性の方への負担がくるということがあるのではないかということです。もうすでに名古屋市ではダブルケアを抱える当事者の会など、NPOなどが動き始めているので、将来的にはそういったことが山県市にもくると思いますので、ぜひ次回の計画にはそういった支援についても入れられるといいなと思います。</p>
会長	<p>介護と育児が重なるという問題は今の時代に出てくるものだと思います。市のほうからどうですか。</p>
事務局	<p>まだこれから策定していく段階で、ニーズ調査の結果をもとに、計画数値として出しますので、その問題が数値として反映されるかは検討が必要ですが、ニーズ量に対する確保方策を検討するうえでそのような意見を含めて検討できたらと考えていますので、またご意見をお願いします。</p>
会長	<p>計画策定にあたって学校側からの要望等がありますでしょうか。</p>
委員G	<p>小学校、中学校はお世話になっていることが多いので、個別の案件については、ここで要望すべきではないと考えながら、随時担当部局のほうにお尋ねや要望をしています。この場では基本的には全体に関わることをお話しすべきだと思っています。学校としては、それぞれのところここうして欲しいということは個別に行っていきますので、あえてこの場で要望しなくてよいかと思っています。</p>
会長	<p>民生・児童委員さんから何かございますでしょうか。計画をつくるにあたってよいでしょうか。</p>
委員H	<p>子育て支援の会議で言うのはあれですが、今いろいろな市町へ研修に行かせていただいています。山県市にはまだないですが、子ども食堂とかいろいろなものを団体さんが各地で行っているのを見えています。また、5年くらい前から健康課のほうからお話を聞かせてもらったときに、これから10年後には子どもが減少しているというのはとっくの前に聞いております。民生委員の会議でもそういうお話をしまして、去年いただいた資料から今年生まれた子が何名ですよということ。要するに、本当にざっくり言うと、高富中学校の35人クラスが4になっているということ。それが子どもが120人いない状況になれば、山県市全体で30</p>

	<p>人クラスでも4クラスになるんだということ、そういう現状を踏まえて、こんなことを言っているのかと思うのですが、山県市で伊自良中や高富中などと分けることが必要なのか、最終的に山県市で中学校が1つしかいなくなるという現状になると思います。そのように10年後を見据えたときに、少子高齢化が進みますと、子ども食堂にしろ、高齢者さんたちのフォローも全般に考えると、そういうなくなる施設をどのようにしていくかということは今から考える必要があると思います。空き家ももちろんだと思いますが、学校も廃校になって、個人的にはNPO法人に所属しておりますので、そちらでいろいろな施設の管理もさせていただいています。そうしますと、合併されてなくなった小学校の管理もさせていただいていますけど、今後なくなっていく施設、例えばですけど美山中学校でこれからなくなっていくのではないかとこの前提で考えると、きれいな施設をいかに有効利用できるのではないのかということも個人的には考えています。そういう施設も利用しながら多世代交流、子どもも高齢者も一緒に施設のなかで利用できるということなど、今の児童館もそういうことも視野にいれて考えていただけると、そうすると山県市の利用価値がもっと高まるのではないかと思います。</p>
<p>会長</p>	<p>ここだけで解決できる問題ではないですが、いろいろな視野を含めて考えていただくということですね。</p>
<p>事務局</p>	<p>今、いただいたご意見のようなことは、このニーズ調査の自由記述でもありました。保護者にとっても、子どもが減る現状が、自分のお子さんにとっての環境としてどうだろうかと不安に思っている方もみえるので、長い目で見て計画を立てていくことが大切だと思いますので、そのあたりも検討していかなくてはならないと思います。</p>
<p>会長</p>	<p>他はどうでしょうか。保護者の方からいかがでしょうか。</p>
<p>委員 I</p>	<p>話が戻ってもいいでしょうか。初めて参加させていただいたのですが、皆様の意見を聞いていろいろ思うことはありました。わたしの住んでいるところは子どもの少ない地域ではあるのですが、その中でPTAをやらせてもらっていて、今後この地区の子どもの数はどうなるのだろうと計算をしてみたのですが、わたしの地域は子どもの数が増えています。大きな地区の中の一つの部落ですが、やはりそこはおじいちゃんおばあちゃんがいて、ちゃんと子育てする環境が整っているところは3人とかけっこう出産されるので、環境さえあればそうなんだと思いました。今後、登校班とかをどうしようかと考えるなど、みんな少しびっくりしていました。学童についてですが、去年までは公民館で、今年から小学校の敷地内にできた一部屋になったということですが、こういう言い方を</p>

	<p>してはあれですが、去年までは部屋もあってホールもあって良い環境でみていただいていたので、恵まれていたなと思っていましたが、今年から一部屋になって、6年生までみてもらえますよとうふうになったのですが、保護者としては一部屋にずっといるくらいなら、子どもだけ置いて家において仕事に行こうかという声もあったり、あと子どもが病気になったときに、わたしはパートで働いているんですが、パートでも自分しかできない仕事があって休めない人もいるので、それだと2人を病児保育に預けて仕事に行くと、一日の自分の時給が全部とられるというふうになる。でも自分しかできない仕事だから、仕事は休めない。だったら、子どもを家においていこうということになってしまう。そういうのがあって、利用したいんだけど、子どものこととかいろいろ考えると、じゃあまだ低学年だけ家にお子をおいておくと考える人も実際います。保護者としては、学童のことは6年生までみてもらえるのはいいことですけども、今日お話を聞く中でいろいろ思いました。</p>
会長	<p>保護者の方の意見も重要だと思います。全体に関わるようなことで、本当はこうしたいんだけど、預けられない状態があるということですね。</p>
委員 I	<p>心配だけど、子どもだけで家においておこうと思うことも、実際にあります。</p>
会長	<p>ありがとうございました。他はいかがでしょうか。保育園関係で、先生どうですか。</p>
委員 J	<p>保育園だけではなく、どのことについてでもですが、人手不足というのは皆さんあげられていて、実際そういう現状です。だからといって、すぐに今日から打開しますよということにはならないので、難しいなということを感じております。</p>
会長	<p>人材が足りないというのは全てに通ずるところで、人材を掘り起こしていくにはどうかなということですね。ちゃんとした結論はないですが、そういうことを次回の計画に盛り込んでいけばと思います。 他はよろしいでしょうか。</p>
委員 B	<p>市長が話をされるかと思いましたが、されなかったのが、無償化の話をします。この10月から3歳児以上の無償化が始まるのかなど。山県市のほうではいち早く無償化をされているので、これから先、全国的にそれがされるので、他にも山県市の計画の中で人不足をどうするかということが、まち・ひと・しごと創生会議でもその雇用の確保であったりということが言われているのですが、その中で山県市の特色がなくなってくるのではないかと思うのですが、それを何か他の市からの移住だけ</p>

	<p>でなく、Uターンも含めて将来的に自分の子どもも含めて戻ってきてくれるものがあるのかということが、保護者の立場からも不安視する部分があります。全国一律になって、子ども・子育て計画としてはそういった特色は持たないのか、何か持っていくのかということはどうでしょうか。</p>
会長	<p>いかがでしょうか。</p>
事務局	<p>山口市子ども・子育て支援事業計画としては、山口市の子どもが山口市の子どもらしく健やかに育っていくことを目指したものです。また山口市の特徴をいかした計画にするべきだと考えています。付け加えさせていただくと、子どもの数が減っているといわれていますが、山口市では平成27年9月から3歳児以上の保育料の無償化を始めております。そこで0歳から5歳くらいの人口統計を見ますと、生まれた年代が翌年にスライドすると増えているという形になりまして、実際には増えているという統計になっております。10月から保育料無償化になるということは、全国一律のものになりますので、山口市のイニシアティブがなくなるということで、どういった傾向になるかということを見極めなければいけません。当然のことながら無償化となり、全国では給食費までは無償化にならないですが、山口市では引き続き市のほうで負担し、どんなお子様でも一定のサポートのもとに健やかに育っていただけるような方針にしておりますので、自治体としてお子様への思いが強いということをご承知置きいただきたいです。それと、今年から自然体験保育といって、平成29年度には一度一般の方向けに行った事業ですが、これを公立保育園に落とし込んでお子様が自然等に触れ合うという事業を始めております。山口市は緑に囲まれたところでありますので、これまでの保育事業も踏まえ、それを深めてお子様が健やかにありのままの環境で良い子に育っていくというものを今年から年間4回します。これらも特徴にしていくということで、こうした山口市の魅力を最大限いかした計画にできるよう配慮して作っていくということを重要視しておりますので、理解していただいてご意見いただければと考えております。</p>
会長	<p>ありがとうございます。他は、給食費は無料ではないけれども、山口市は無料ということ。また、自然を活かした保育をしていくということで、そのあたりをPRしていただくということがさらに必要かなと思います。</p> <p>他はいかがでしょう。よろしいでしょうか。</p>
委員E	<p>働く人が不足しているということで、わたしたちの世代の未就学児がいるお母さんは20～40、50代がいて、働きづらいけど、一番働ける世</p>

	代がいて、少しでも働きやすい環境を整えていただくといいなと思います。
会長	とにかく働きやすい環境を整えるのが一番かなという気がしますので、子育て支援でもそのあたりも踏まえていきたいと思います。 それでは事務局で計画案を作ってください、次回の会議で話し合うということですね。他はよろしいでしょうか。(意見なし)

#### 5. 閉会

会長	それでは会議のほうをこれで終了させていただきたいと思います。ありがとうございました。
----	--